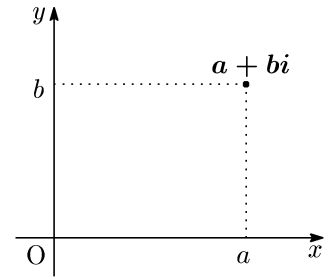


### 複素数平面

複素数  $z$  は、座標平面上の点  $P$  に対応させることができる。

$$z = a + bi \quad \longleftrightarrow \quad P(a, b)$$

このように、複素数  $z = a + bi$  に点  $P(a, b)$  を対応させるとき、この座標平面を \_\_\_\_\_ または**ガウス平面**といい、 $x$  軸を \_\_\_\_\_ ,  $y$  軸を \_\_\_\_\_ という。

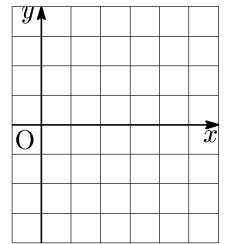


複素数平面では、 $z = a + bi$  が表す点  $P$  を、**点  $P(z)$** 、または**点  $z$**  と書く。(点  $P(a, b)$  とは書かない)

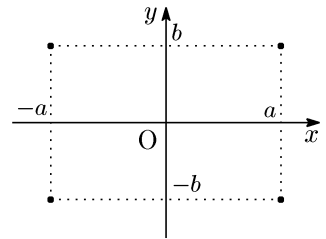
**問題 1** 右の複素数平面上に、次の複素数の表す点をかけ。

(吉教科書 p.89 問 1)

- (1) 3      (2)  $2i$       (3)  $3 + 2i$       (4)  $3 - 2i$



複素数平面上では、複素数  $z = a + bi$  と、その共役な複素数  $\bar{z} = a - bi$  について、4点  $z, -z, \bar{z}, -\bar{z}$  の位置関係は、右の図のようになっている。(書き込め)



### 共役な複素数の性質

複素数  $\alpha, \beta$  と共役な複素数  $\bar{\alpha}, \bar{\beta}$  について、次のことが成り立つ。

#### ● 共役な複素数の性質 ●

- 1  $\overline{\alpha + \beta} = \bar{\alpha} + \bar{\beta}$     2  $\overline{\alpha - \beta} = \bar{\alpha} - \bar{\beta}$     3  $\overline{\alpha\beta} = \bar{\alpha}\bar{\beta}$     4  $\overline{\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)} = \frac{\bar{\alpha}}{\bar{\beta}}$

複素数  $z$  について、次のことがいえる。

$$z \text{ が実数} \iff z = \bar{z}, \quad z \text{ が純虚数} \iff z = -\bar{z} \quad (\text{ただし } z \neq 0)$$

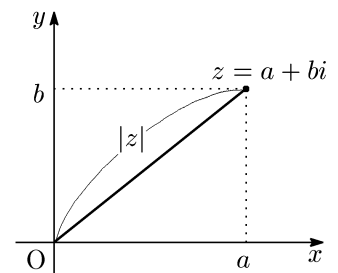
### 複素数の絶対値

点  $z$  と原点  $O$  との間の距離を、複素数  $z$  の**絶対値**といい、 $|z|$  で表す。

$$z = a + bi \text{ のとき, } |z| = |a + bi| = \sqrt{a^2 + b^2}$$

$$\text{このとき, } z\bar{z} = (a + bi)(\quad) = \quad = |z|^2,$$

すなわち、 $|z|^2 = z\bar{z}$  ----- **重要**



**問題2** 次の複素数の絶対値を求めよ。

(吉教科書 p.90 問 6)

(1)  $4 - 2i$

(2)  $-3i$

(3)  $(1 + i)(2 - i)$

(4)  $\frac{1 + 2i}{3 + i}$

※絶対値について、次の性質が成り立つ。確認しておこう。

(吉教科書 p.90 問 5)

$$|z| = |-z| = |\bar{z}|, \quad |\alpha\beta| = |\alpha||\beta|, \quad \left| \frac{\alpha}{\beta} \right| = \frac{|\alpha|}{|\beta|}$$

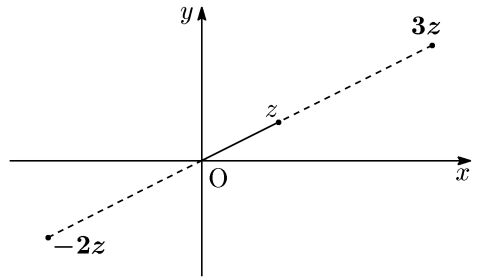
**複素数の実数倍**

複素数  $z$  に対して、例えば

$3z$  は線分  $Oz$  を  $z$  の側に 3 倍したところ

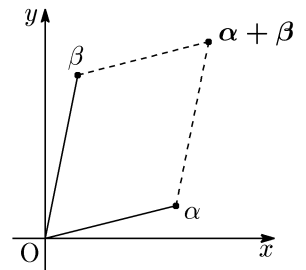
$-2z$  は線分  $Oz$  を  $O$  の側に 2 倍したところ

にある。



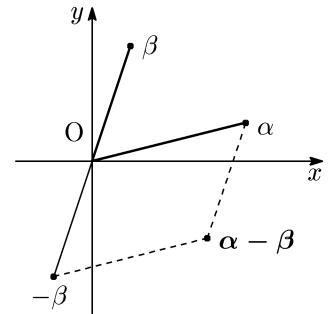
**複素数の和**

2つの複素数  $\alpha, \beta$  に対して、 $\alpha + \beta$  は、線分  $O\alpha, O\beta$  で作られる平行四辺形の第4の頂点である。



**複素数の差**

2つの複素数  $\alpha, \beta$  に対して、 $\alpha - \beta$  は、 $\alpha + (-\beta)$  と考えられるから、線分  $O\alpha, O(-\beta)$  で作られる平行四辺形の第4の頂点である。



**問題3**  $\alpha = 3 + 2i, \beta = 1 - i$  のとき、次の複素数の表す点を作図せよ。

(吉教科書 p.91 問 7)

(1)  $\alpha + \beta$

(2)  $\alpha - \beta$

(3)  $\alpha + 2\beta$